

## ヒトツバタゴの実

ヤマボウシに続き、今回はヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）の実です。

5月に白い可憐な花を咲かせていたヒトツバタゴも、半年後の11月には黒い実をたわわに実らせていました。あの繊細で華麗な細い花から、こんなにも黒っぽい実ができるとは、想像すらできませんでした。



1ヶ月ほど前に、緑色の葉に混じって同じ緑色の丸い実がなっているのを偶然見つけました。その時は、ヒトツバタゴも実をつける木なのだという軽い印象だけでした。ところが、昨日何気なくふと目をやると、いつの間にかその実は存在感のある黒い実に変わっていました。正直驚きました。秋が深まり葉の緑が薄れるにつれて、その実は熟して黒っぽくなったようです。

真っ黒というよりは青黒い感じの葡萄のような、はたまたブルーベリーののような実で、触ってみると中は少し柔らかい感触でした。試しに実を剥いてみると、薄緑色の果肉の中に茶色の大きめの堅い核があって、浅い縦縞の溝模様がついていました。あの白い花からこんな実ができる自然の不思議さ、おもしろさを感じました。

ヤマボウシは花を咲かせてから3ヶ月ほどで実を熟させましたが、ヒトツバタゴはその倍の半年をかけて、慌てずじっくりと実を育てました。植物のそれぞれの生き方、個性を感じます。与えられた様々な風土や自然環境の中で、自分に一番適した方法で種（しゅ）を伝え繋いでいく植物の逞しさ、したたかさを実感しました。ヒトツバタゴの策戦には、その花の可憐さからはイメージできない図太さ、芯の強さが備わっていると思います。



東高の生徒諸君も、それぞれ豊かな個性や輝ける希望を持っています。ヤマボウシのように早く、より早く人生を充実させて駆け抜ける人もいれば、ヒトツバタゴのように自分のペースを乱さず、周りにも影響されることなく、慎重着実な歩みで人生を前に進む人もいます。人生のゴールも人それぞれですが、そこに至るまでの道のりでは、誰もが信念と情熱を持って誠実に、そして力強く生きて欲しいと願っています。逞しい植物のように。

11月18日

大垣東高等学校長 浅野 裕 司